

## 既設特定住宅部品診断基準（貯水槽）

特定住宅部品にかかる優良取替事業等推進規程第 2 1 条第 1 項の規程に基づき、既設特定住宅部品診断基準（貯水槽）を以下のとおり定める。

### 1. 診断項目

水槽診断士は、対象の貯水槽の診断にあたり、別表 1 に掲げる部位毎の診断項目について診断を行うこと。

### 2. 診断方法

水槽診断士は、対象の貯水槽の診断にあたり、次の診断方法により診断を行うこと。

#### (1) 劣化診断

各項目について、診断の部位に応じて目視、聴覚、触覚により現地調査を実施し、別添 水槽判定基準（3 段階判定基準）により劣化度の判定（数値 1～5）を行う。

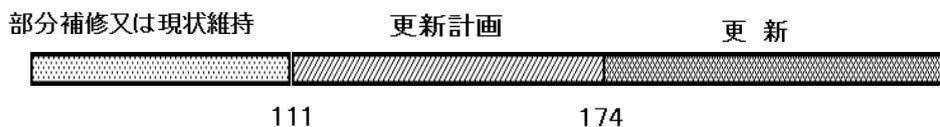
診断の評価は、診断項目の 3 段階判定基準の判定値と重要度を掛け合わせた合計値の診断評価と設置年数の診断評価で部分補修又は現状維持、更新計画、更新の判定を行う。

#### 【判定基準】

劣化状態    5：ひどい                    3：ややひどい                    1：現在問題なし

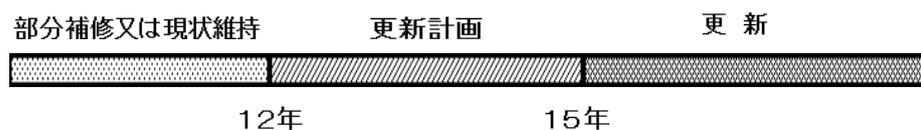
#### 【診断評価】

点数（判定値×重要度）の合計で 110 以下であれば部分補修又は現状維持、111～173 は更新を計画、174 以上は更新とする。



#### 【設置年数】

設置年数が 11 年以下であれば部分補修又は現状維持、12 年～15 年は更新を計画、15 年超は更新とする。



#### 【最終評価】

診断評価（部分補修又は現状維持）で設置年数(11 年以下)の場合は部分補修又は現状維持

診断評価（部分補修又は現状維持）で設置年数(12 年～15 年)の場合は現状で問題はないが悪い判定値に注意を要する。

診断評価（部分補修又は現状維持）で設置年数(15 年超)の場合は更新計画を要する。

診断評価（更新計画）で設置年数(11 年以下)の場合は更新計画を急ぐ(設置場所、使用頻度に問題あり)

診断評価（更新計画）で設置年数(12 年～15 年)の場合は更新計画を要する。

診断評価（更新計画）で設置年数(15 年超)の場合は更新計画を要する。

診断評価（更新計画）で設置年数(25 年超)の場合は更新を要する。

診断評価（更新）で設置年数(11年以下)の場合は更新を急ぐ(設置場所、使用頻度に問題あり)

診断評価（更新）で設置年数(12年～15年)の場合はできるだけ早急に更新を要する。

診断評価（更新）で設置年数(15年超)の場合は更新を要する。

## (2) 耐震診断

各項目について、目視による現地調査を実施し、また必要に応じて図面、計算書を確認して適合・不適合及び変形等の有・無の判定を行い、耐震性能の適否の診断を行う。

### 【判定基準】

耐震適否で適合・不適合及び変形等の有・無の判定を行う

### 【診断評価】

設置年が1996年以前のものは、耐震機能は不十分と評価する。

耐震適否で不適又は有が1つでもあれば耐震機能が不十分と評価する。

## 3. 診断書の交付

水槽診断士は、該当貯水槽の診断を実施後、発注者に対して、財団が定める様式により、補修又は部品交換による延命策あるいは水槽の更新等の提案を踏まえた水槽診断結果報告書及び水槽診断書を交付すること。

水槽診断結果報告書及び水槽診断書の様式は、別添様式1及び別添様式2を標準とする。

別表1 診断項目  
(1) 劣化診断

部位		診断項目	判定基準による判定値			重要度	点数	
槽 本 体	天板・側板 底板パネル (外面)	1. 変形の有無	5	・	3	・	1	4
		2. ひび割れ、亀裂の有無	5	・	3	・	1	4
		3. 表面劣化度	5	・	3	・	1	4
		4. 汚れ	5	・	3	・	1	3
	マンホール	5. ハッチのがた・破損の有無	5	・	3	・	1	3
		6. パッキンの脱落・破損の有無	5	・	3	・	1	3
		7. 施錠の錆付・破損の有無	5	・	3	・	1	3
水 槽 外 部	補強材	8. 錆状態の程度	5	・	3	・	1	3
		9. 変形の程度	5	・	3	・	1	2
		10. ボルトの錆付、破損の有無	5	・	3	・	1	3
	取出口	11. 変形、傾きの有無	5	・	3	・	1	2
		12. 漏水状態の有無	5	・	3	・	1	2
	外梯子	13. 錆付、破損の有無	5	・	3	・	1	3
	電極座	14. カバーの破損	5	・	3	・	1	3
通気管	15. 防虫網の破損	5	・	3	・	1	3	
水 槽 内 部	内部補強材	16. 錆、破損の有無	5	・	3	・	1	3
		17. 変形の程度	5	・	3	・	1	3
		18. ボルトの錆付、破損の有無	5	・	3	・	1	3
	内梯子	19. 破損の有無	5	・	3	・	1	1
組 立 ボ ル ト	外部ボルト	20. 錆付、破損の有無	5	・	3	・	1	3
		21. 締付可否	5	・	3	・	1	2
	内部ボルト	22. 錆付、破損の有無	5	・	3	・	1	3
		23. 締付可否	5	・	3	・	1	2
シール材	24. 漏水状況の程度	5	・	3	・	1	4	
架 台	25. 錆び状態の程度	5	・	3	・	1	3	
	26. 傾きの状況、程度	5	・	3	・	1	1	
	27. 組立ボルトの 錆付、破損の程度	5	・	3	・	1	3	
アンカーボルト	28. 錆付、破損の程度	5	・	3	・	1	3	
			合計					

(2) 耐震診断

診断項目	診断項目	耐震適否
本体の仕様	1.本体の耐震仕様はよいか	適・不適
	2.本体の傾きはないか	無・有
	3.異常な変形、撓みはないか	無・有
	4.亀裂、損傷はないか	無・有
接続配管	5.変位吸収継手が使用されているか	適・不適
	6.変位吸収継手に劣化や損傷はないか	無・有
	7.変位吸収継手の近くで配管は固定されているか	適・不適
	8.長い配管の場合、中間に支持を取っているか	適・不適
	9.水槽内部配管は堅固に支持固定されているか	適・不適
	10.緊急遮断弁などの配慮はなされているか	適・不適
機器類・付属品類 の取付状態	11.機器類・付属品類に腐食劣化や損傷はないか	無・有
	12.機器類・付属品類は緩みなく堅固に取り付けられているか	適・不適
架台	13.構成部材は必要強度を満足しているか	適・不適
	14.異常なねじれや傾きはないか	無・有
	15.架台上面のレベルは出ているか	適・不適
	16.腐食などの劣化や損傷はないか	無・有
据付ボルト	17.サイズ・本数は必要強度を満足しているか	適・不適
	18.腐食などの劣化はないか	無・有
	19.据え付けボルトのゆるみはないか	無・有
コンクリート基礎	20.躯体と一体構造になっているか	適・不適
	21.形状、安定性、基礎巾はよいか	適・不適
	22.異常な割れ、亀裂、傾きなどはないか	無・有
基礎へのアンカー ボルト	23.サイズ、本数は必要強度を満足しているか	適・不適
	24.アンカーボルトの緩みはないか	無・有
	25.レベル調整ライナーの未挿入はないか	無・有
	26.腐食などの劣化はないか	無・有